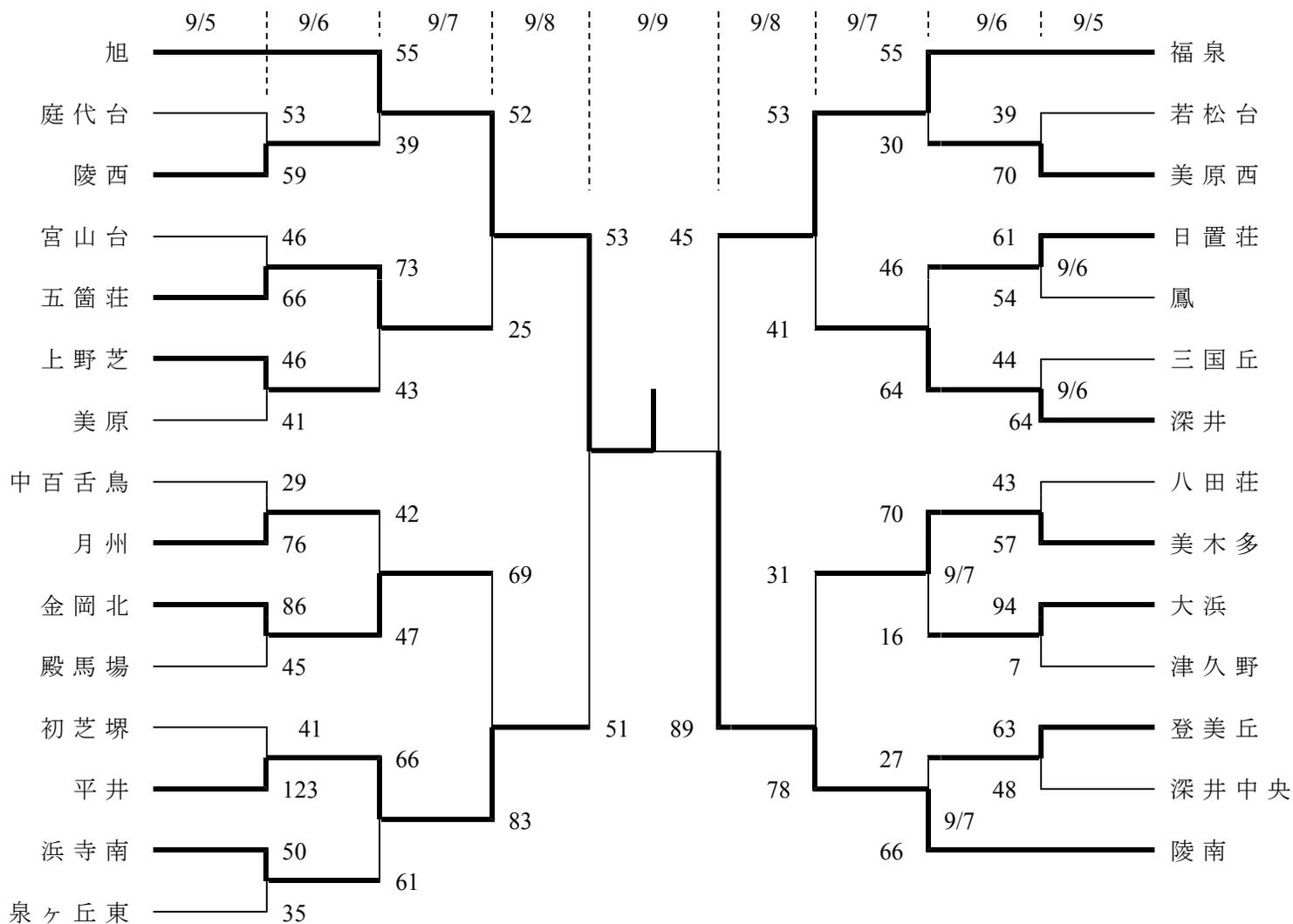


2008年度堺総体

男子の部



決勝

旭	4	7	-	4	1	陵南
	10	10	15			
	16	20	12			
	9	30	4			
	12	40	10			

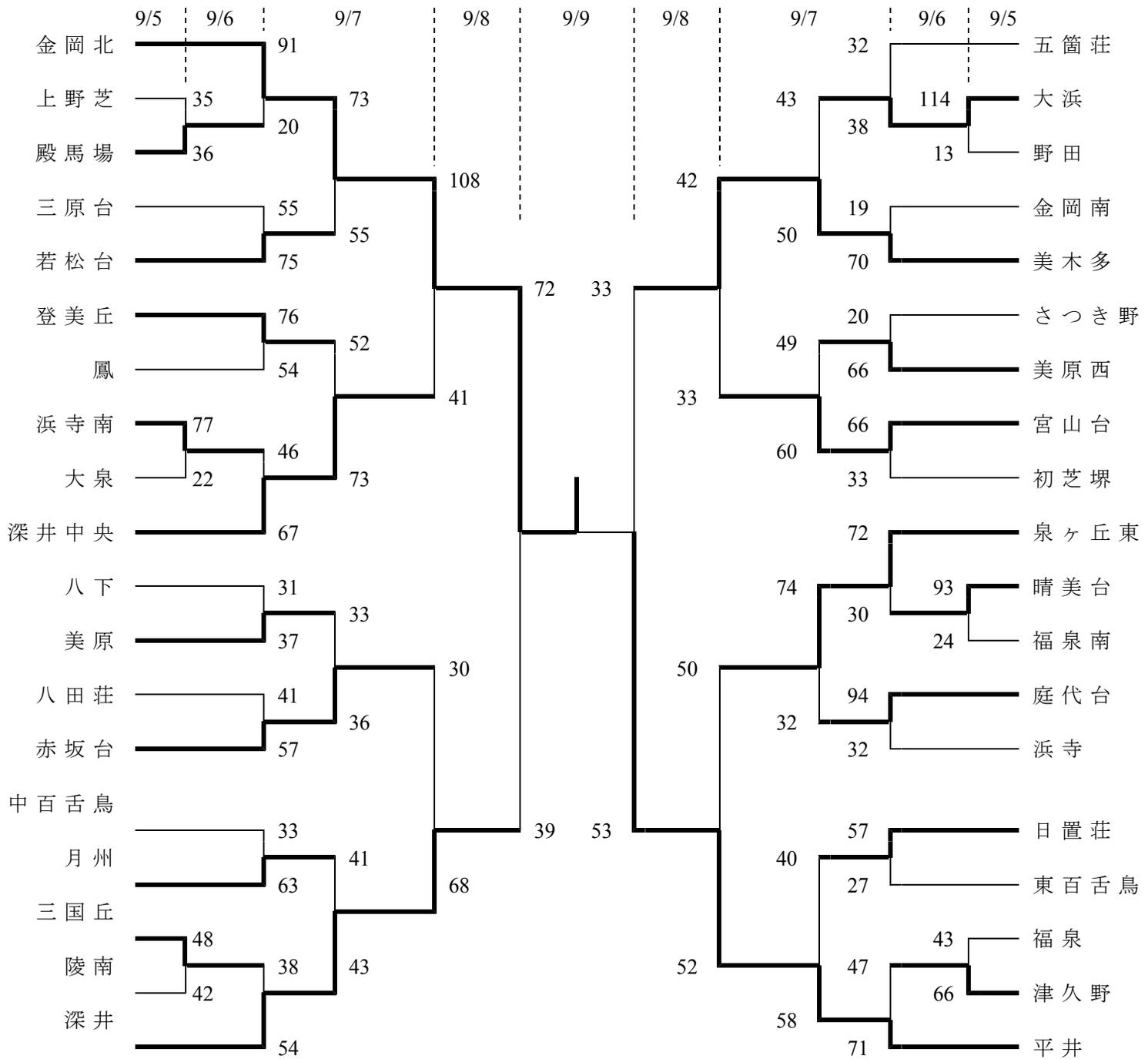
旭はゾーン、陵南はオールコートマンツーマンでスタート。1Q立ち上がり、陵南のミドルシュートとローポストプレイが決まりペースをつかむ。対して旭は⑩の3Pで対抗するが、15-10で陵南がリードする。

2Qに入っても陵南は⑤のローポストプレイで追加点を加える。旭も着実にゴール下シュートで反撃し、27-26と陵南の1点リードで前半を終了する。

後半に入り、旭がDEFをオールコートマンツーマンに変えると、陵南の動きが止まり、旭⑭の3Pで逆転に成功する。その後、旭が得点を加え、35-31と旭リードで3Qを終える。

4Qに入ると、旭はゾーンのプレスでさらに陵南を苦しめにかかる。しかし、陵南もゴール下で⑤⑨ががんばり食い下がる。最後は地力に勝る旭がシュートを決め、47-41で優勝を決めた。
(佐藤・山岸)

女子の部



決勝

金岡北	59	-	54	平井
	10	1Q	16	
	19	2Q	6	
	18	3Q	20	
	12	4Q	12	

1 Q、平井④⑦の3 Pが効果的に決まる。対する金岡北も⑤の3 Pや⑥のリバウンドシュートで対抗する。先にリズムに乗った平井がバックドアップレイからも得点を加え、16-10でリードを奪う。

2 Qに入り、平井のボックスアウトを金岡北のOFFリバウンドが上回り始め、残分3に⑥のリバウンドシュートで逆転に成功する。その後もリバウンドとルーズボールを支配した金岡北が攻勢を強める。終了間際には金岡北④のブザービーターがリングに吸い込まれ、29-22で前半を終える。

後半に入ると、平井のゾーンが機能し、DEFのがんばりから得点を重ね、残分3には40-38と2点差までつめよる。それに対し、金岡北も⑥がリバウンドシュートを確実に決め、47-42と流れをつかんだまま最終Qを迎える。

4 Qに入り、平井のDEFがさらなるがんばりを見せ、④のシュートを中心に残分4には50-49と逆転に成功する。逆に金岡北もリバウンドで強さを見せ、残分1には⑥のリバウンドシュートで55-54と再逆転をし、最後は59-54で金岡北が勝利した。

(佐藤・塩井)